

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+5	+5	+10	令和8年度の目標	+2	+2	+2	+4	+4	+5	+7	+8
令和7年度の結果	+2	-1	+1	令和7年度の結果	-2.1	-6.4	+1.7	+3.9	+4.6	+6.4	+0.3	+2.6
令和6年度の結果	+2	-9	-7	令和6年度の結果	-3.5	-3.6	+7.4	+9	-0.8	+3.8	+1.1	-2.5
令和5年度の結果	+4	+3	+7	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容							
学校全体	<p>国語については、知識技能の正答率が高い。そのため、都や全国の平均正答率を上回っている年が多い。読む力には課題があり、文章の内容を正確に捉えることを苦手としている児童が多い。それは、他の教科にも影響を及ぼしている。算数は、基礎基本の定着に力を入れてきた成果が出てきており、知識技能は都の平均と並ぶことができた。しかし、思考力を問う応用問題でわずかにとの平均を下回ってしまった。全体的に力がついてきているが、問題をよく読み、考える力や表現する力を育てなければならぬ。</p>			<p>読解力を高め、応用問題でも問題をよく読み、正しく立式したり、説明したりすることができる。特に、全国学力調査では、自分の考えを説明させる問題が多く出題されているが、普段答え慣れていない児童は苦戦する様子が見られた。次年度は、表現力も高めていきたい。</p>		<p>学力を高めていくためには、日々の授業の積み重ねが重要である。特に表現力については、普段から説明する機会がないとなかなか身に付いていかない。授業の中で答えにたどり着くまでの過程を大切に、それを児童の言葉で説明させる取組を進めていく。読解力については、国語で育むことはもちろんだが、社会科で資料を読み取ることや算数科で文章題を正確に読むことでも育むことができると考える。</p>	
第1学年	<p>【成果】 ・ひらがな、カタカナ、漢字の字形に気を付けて丁寧に書くことができた。 ・算数では、さくらんぼ計算や図を使って考えることができた。 【課題】 ・促音、拗音や助詞の「は」「を」「へ」を正しく使えていない。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の書き順が身に付いていない。</p>			<p>【国語】 ・促音、拗音や助詞を文の中で正しく使えるようにする。 ・正しい書き順を覚える。 【算数】 ・時刻を正確に答えられるようにする。 ・自分の考えを友達に説明できるようにする。</p>		<p>【国語】 ・宿題に日記に取り組み、自分で文を組み立てる練習をする。間違いは直させる。 ・書き順の復習に取り組み。 【算数】 ・授業の中で、自分の考えを順序だてて説明する機会を設ける。 ・普段から時刻を意識して行動させる。</p>	
第2学年	<p>【成果】 ・文章の内容を概ね理解することができている。 ・かけ算九九を暗唱できる。 【課題】 ・〇分後の時刻を問われる問題に対する正答率が低い。水のかさの単位換算の正答率が低い。 ・語彙力が低く、問題を正確に読み取ることができない。</p>			<p>・国語科の授業や家庭学習で言葉集めを行い、語彙を増やす。 ・読書週間を活用し、本に親しむ。 ・水のかさや時刻の単元以外にも、考える機会を増やす。</p>		<p>・国語科の授業や家庭学習で言葉集めを行い、語彙を増やす。 ・読書カードを活用し、読書記録をすることで本に触れる機会を増やす。 ・水のかさを体感できる授業づくりを行い、量感を養う。また、体感できるような算数コーナーを設け、生活と関連付けて考えられるようにする。 ・日常的に時刻を問う機会を設け、時計を見て時刻を考えられるようにする。</p>	
第3学年	<p>【成果】 ・国語、算数ともに「思考力・判断力・表現力」は比較的高いため、文章の読み取りは改善の見込みがある 【課題】 ・国語（-2.1）、算数（-6.4）ともに全国平均値を下回る結果となった。「知識・技能」は改めて補充が必要である。 ・国語は、「言葉・情報・言語文化」の領域が-3.4、算数では「図形」の領域が-10.0だった。</p>			<p>&lt;国語&gt; ・漢字の読み書きを適切に行うことができる。 ・文章を読み取り、問いに対する答えを文章化することができる。 &lt;算数&gt; ・定規やコンパスを使い、図形を作図することができる。 ・計算を正しく行うことができる。</p>		<p>&lt;国語&gt; ・朝学習を活用し漢字テストを行い、新出漢字を確実に定着させる。 ・図書の時間を充実させ、学年の発達段階に見合った本を読ませる。 &lt;算数&gt; ・習熟度別の授業を行い、作図が苦手な児童に手厚く児童が行き届くようにする。 ・朝学習や宿題を活用し、計算練習をたくさん行う。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ・国語の領域別で見ると、「言葉・情報・言語文化」「書くこと」「読むこと」の3点で、全国平均を上回った。これは、日々の授業において、国語だけでなく、他教科においてもタブレットを活用しながらの調べ学習の時間を多く設定したことで、児童が書いたり読んだりし、また家に情報や言語（言葉）に触れさせたことによる成果と考える。 ・算数においては、観点別で「知識・技能」、領域別で「数と計算」が全国平均を上回った。基礎基本の定着に力を入れ、日々の授業や朝学習、家庭学習等で繰り返し問題練習に取り組んだ成果と考える。 【課題】 ・国語の領域別で唯一、「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回った。日々の授業においても発言が少なく、話すことの苦手な児童が多い。 ・算数の領域別で唯一、「測定」が全国平均を下回った。これは、再度を測ったり、平行・垂直な直線を書いたりするなどの学習は、その単元を終えたと繰り返し学習する機会が少ないことが考えられる。</p>			<p>&lt;国語&gt; ・基礎基本の定着を図りながら、表現力を高めていく。 &lt;算数&gt; ・基礎基本の定着を図りながら、角度等を測ったり図形を書いたりする力を高めていく。</p>		<p>&lt;国語&gt; ・日々の授業の中で他教科も含め、児童が自分の考えを話す場を計画的に設定する。またあらかじめ、自分の考えを書き出すことで、話すことに苦手意識をもつ児童も安心して話せるようにする。 &lt;算数&gt; ・朝学習や家庭学習の時間を活用して、角度等を測ったり図形を書いたりする学習を繰り返している。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ・国語、算数ともに全国平均を5ポイント程度上回り、相対的に見て学力定着度は高い。 ・国語では、文章の読解力や漢字や音読の知識がしっかりと身に付いている。 ・算数では、知識・技能は高いポイントを取ることができており、基礎的な学力は定着してきている。 【課題】 ・国語では、思考・判断・表現の中でも、意味のあるまとまった文章を書く力、自分の意見を整理しまとめる力が低い。 ・算数では、文章を正確に読み取り、問われていること、答え方を理解し、問題場面を正確に式に表すといったような問題に特に課題がある。</p>			<p>・国語では、基礎基本の定着を図りながら、表現力を高めていく。 ・算数では、基礎基本の定着を図りながら、読解力や立式の力を高めていく。</p>		<p>・国語、算数ともに、教科書に書かれている内容を正確に読み取り、問われていることや、書かれている場面をしっかり理解できるようにする。 ・国語では、自分の考えや意見を整理し、まとめて他者に伝える活動や、意見を文章に表す活動を増やす。また、それらの活動に対し、丁寧なフィードバックを行う。 ・算数では、教科書の文章をまずは細かく読み取る。色別アンダーライン等を用いて、正確に読み取る練習をする。</p>	
第6学年	<p>【成果と課題】 ・江戸川区学力調査では、国語、算数ともに全国平均を上回った。5年生の時、0.8ポイント下回っていたため、今年度実施した結果は0.3ポイント上回る成果が出た。 ・全国学力調査では、国語は2ポイント上回ったが、算数では1ポイント下回っている。国語では、D層が少なく、全体の底上げができてきている。算数では、「図形」は区の平均を上回っているが、図形以外の領域で区の平均を下回っている。</p>			<p>・国語では、基礎基本の定着を図りながら、表現力を高めていく。 ・算数では、基礎基本の定着を図りながら、発展的な問題にも取り組めるようにしていく。</p>		<p>・授業の中で発展的な学習に取り組む場面を意図的、積極的に設けていく。 ・タブレット端末を活用して授業の質、密度を高めるとともに、より主体的に取り組む活動を増やしていく。 ・自分の考えを言葉でわかりやすく説明したり、友だちと考えを出し合って深めたりする場を積極的に設けていく。 ・読書科などでの調べる活動を充実させ、自分の言葉でまとめたり、表現したりする機会を充実させていく。</p>	